

ギャル文字習字によるリメディアル教育への試み

鷲北 貴史^A 松田未来^B

1. はじめに

約二十年前、「ギャル文化」が世にはびこり、「ギャル文字」という独自の記号化された文字が中高生の間で流行した。その後「ギャル」は存在そのものがマイナーとなった中で、最近一冊の本が注目を浴びた。

「学年でビリだったギャルが、1年で偏差値を40あげて日本でトップの私立大学、慶應大学に現役で合格した話」(坪田信貴著)である。この本では勉強とは無縁だったギャルに小学校段階から教育をやり直し、慶應大学に合格させるまでのプロセスが描かれている。まさに<リメディアル実践>である。報告者も勉強とは無縁の若者達の学力再生塾を、大学教員になる前は経営していた。教育実践の場を大学に移した現在でも、「教員による学習の動機づけと、スカッフオールディングスにより、学力再生は可能である。」という持論は変わっていない。最近、大手出版社での講演や、大学の教員免許更新講習会などで、自分のイズムを語ってきた。しかし、自分も現役でいられる期間があと十数年と考えると、イズムの継承者を育てていかなければならない。そこで、若者が主催する教員志望者のサークルや若手教員の集まりに積極的に参加をし、熱い「志」を持つ若者達と勉強会をするようになった。今回報告する「ギャル文字書道教育」は、そんな若者達とのインタラクションの中から生まれた実践である。

2. またまた出会いは喫煙所？！

三月に都内で、教師を目指す若者が百人集まるイベントがあった。その会場の喫煙所で、熱く書道教育のあり方を語ってきた少女がいた。大東文化大で書道教師を目指して勉強している松田さんだ。彼女は現在の書道教育の在り方に対して、熱い思いを持って実践をしていた。「便利な時代となりパソコンを使えば直ぐに文字を打てる時代。確かに便利で効率はいいがパソコンの文字からはどんな年代の人が書いたのか、性別は何か等の人物像を想像するのは難しい。手書き文字

は「想いを形に」することが出来る。書道と聞くと今の人たちは敬遠するよう感じられるが「書く」ということは日常的に行われている。書道という科目は、どの教科においても基礎基盤となるものであり、馴染み深く学びの核となるものだと言える。それなのに、教育書道は型にはめて文字を教えることが中心となっていることに疑問を感じる。私だからできる書道教育がきっとある。そんな思いを学校現場や塾で伝えていく実践を始めたところなんです。」彼女は、私が教育学を専門とする大学教員と知ると、ますます、ヒートアップして、学校の在り方、書道の在り方を語ってくれたのだ。

3. ギャル文字だって書道教育は成立する

松田はさらに続けた。「私が小中学生の時に流行したギャル文字も自分の書体を確立して変化をつけたり一定のリズムで字を連ねるという点や、今も女子の間で鉄板となっているプリントクラブの落書きも四角の中にバランスよく文字やスタンプを収めるという点で半紙の中に白と黒のバランスを考えながら書くという書道でも通ずるものがあると考え。これを実践していくことで、勉強が嫌いな子たちにも、勉強に向かわせるきっかけが作れるのではないか？この思いをもっと伝えていくためにも、私は教員になりたい。」この話を聞いた後、私は彼女に提案をする。「夏にリメディアル教育の学会があるので、その実践を発表してみない？君の取り組みは、俺が目指している教育にかなり近いことやってんのよ。」まだ、早すぎるのでは？と迷う彼女であったが、「今でしょ?!」という説得に負けたのか、今回共同報告者として登壇する決意をしてくれたのだ。しかし、日程が大学のゼミ合宿と重なってしまい会場入りは不可能となった。それならばと、彼女の教育実践をVTRに収録することにした。今回の報告は、その一部を見ていただき、ギャル文字書道の可能性を世に問うことを、またその手法は他教科にも有効であると問う、これを目標とする。

A: 高崎経済大学経済学部

B: 大東文化大学文学部

4. 教育書道と芸術書道のはざまで・・・

今回の報告は書道の専門家からはお叱りを受ける内容かもしれない。日本の学校での書道の扱い方は、国語科の領域としての教育書道、美術や音楽と同列の扱いとしての芸術書道である。このギャル文字書道の実践は「教育書道領域」で行われる事を目標としている。

「芸術書道と教育書道の違いというのはやっぱり難しいです」と松田は語る。「教育書道では『書く』という点に重点を置いているように思えるが、本当の書道の楽しさというものは目に見える作品だけではなく、その背景にある文学性や民族性、宗教、思想（まとめて文化といえるかな？）を知ることで生まれる。それならば、勉強嫌いの子ども達の文化を書て表わすことは可能なのではないか？」

5. 教育書道の指導要領を初めて見た！

自分は、大学で教職科目を担当しているので、指導要領は各科目とも目を通してきたつもりだった。しかし、書道の要領は今まで見たことが無かったのだ。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕という項目で、各学年ごとの指導項目が定められていた。例えば中学1年の書道では、
ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷（かい）書で書くこと。
イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。
このようになっている。このしぼりの中で、彼女の目標は達成できうるのだろうか？

一方芸術科目としての書道の要領には、次の様に書かれている。高等学校書道Ⅰの要領

「書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。」

書道Ⅱになると・・・

「書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。」

また、書道Ⅲになると、

A 表現：表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 漢字仮名交じりの書

ア 書の伝統を理解し、現代社会に即した効果的な表

現を工夫すること。

イ 主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求すること。

この『現代社会に即した効果的表現』『主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求』ここに、ギャル文字書道を学校教育の場で実践する可能性を見いだせるのではないだろうか？しかし、書道Ⅰ～Ⅲは芸術書道として取り扱われているのだ。しかし、松田はこの問題はクリア可能だとしている。

6. ギャル文字も草書も根底の意識は同じ

「さきほど、書道の楽しさは文化理解から生じると言いましたが、じゃあ今どういう文化で私たちは生きているのか？今の私たちの文化ではどういう表現が出来るか？それを考えれば答えはでるはずですよ。今の文化と昔の比較から導入すれば、共通点が見えてきます。昔・・・名を残した書家達が生み出した文字、白の余白と黒の墨のバランス等

現代・・・ギャル文字、プリントクラブの落書き等

一見関係のないように見えますが、現代の女子中高生が生み出すギャル文字と言われるものは、電子機器を利用して表現する一つの創造性なのです。その根底に流れているものは『美意識』であり、今と昔に共通していえる、美意識が形を変えて表現されているのです。」

7. おわりに：どの教科にも突破口はあるはず！

自分は前任校（LEC大学）では学習支援の責任者だった。勉強嫌いの大学生達の姿や再生事例を、第4回大会から報告させていただいている。単位つきの科目も徹底してリメディアル教育を取り入れた実践をしてきた。そんな中で同僚の中には、「鷲北先生の科目は社会学だから、学生が興味ある話題に落とし込んでできるんだよ。経済学とか、無理だね。できないよ。」

できない？できないのでは無い。池上彰はやって見せているのではないか？できないのではない！やろうとしないだけだ。自分は今は、教職科目、統計学、社会学、日本語リテラシー、基礎数学、SPI 講座、英語など、大学、高校、予備校など七か所で教壇に立っている。その全てをリメディアル実践へと還元しているのだ。だからこそ、今回の実践も「不可能」とも考えられる書道教育での貴重な実践例として世に問うのだ。